

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	62人	国語B	62人
② 算数A	62人	算数B	62人

5 留意事項

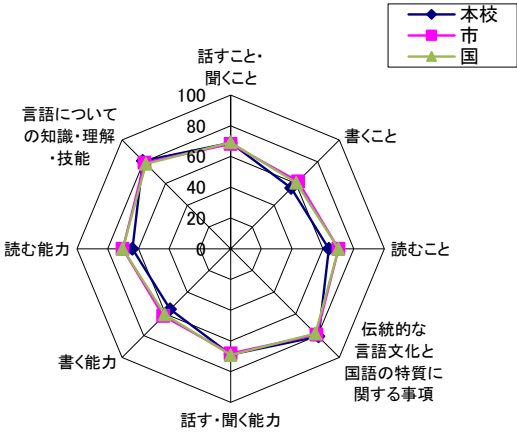
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

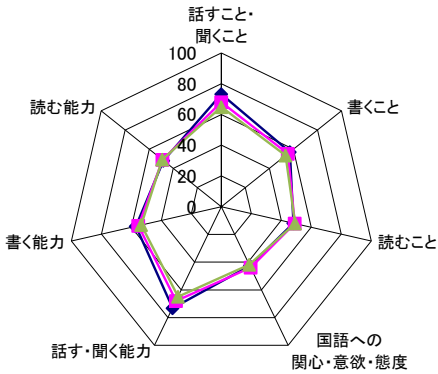
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.9	68.2	69.2
	書くこと	55.7	62.0	60.6
	読むこと	63.9	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.8	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	68.9	68.2	69.2
	書く能力	55.7	62.0	60.6
	読む能力	63.9	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	80.8	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.2	68.0	64.9
	書くこと	57.0	55.3	53.4
	読むこと	48.1	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	42.6	43.9	41.7
	話す・聞く能力	73.2	68.0	64.9
	書く能力	57.0	55.3	53.4
	読む能力	48.1	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

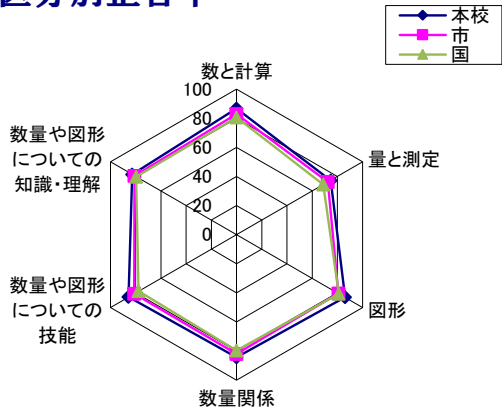
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aは全国平均とほぼ同じ、国語Bは全国平均を8.3ポイント上回った。 ○目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことを問う設問の正答率は、選択式・記述式ともに全国平均を10ポイント以上上回った。 ●話し合いの中で、報告の説明として適切なものを選択する設問の正答率は、全国平均を0.3ポイント下回った。	・授業中だけでなく、普段の生活の中でも話をしっかり聞く習慣を身に付けさせるよう、話を聞くことの大切さを引き続き指導していく。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加できるように、自分の考えや友達の考えをメモを取るよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、国語Aは全国平均を6.1ポイント下回り、国語Bは全国平均を3.6ポイント上回った。 ○記述式の問題の無回答率が全国を大きく下回った。授業の中を書く活動を意識して取り入れた成果だと思われる。 ●何を書くか分かっていても、字数を意識しないで書いてしまう傾向がある。	・書くことに慣れてきたので、次のステップとして、自分から積極的に書きたいと思う場を設定していく。 ・100字作文や50字で自分の考えを書くなど、字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、国語Aは全国平均を6.3ポイント下回り、国語Bは全国平均とほぼ同じだった。 ○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる設問の正答率は全国平均を4.4ポイント上回った。 ●目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む設問の正答率が全国平均を15.4ポイント下回った。説明文の読み方が不十分な傾向がある。	・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。 ・多くの読み物に触れさせることで、心情をとらえる力の向上を図る。 ・説明文の構成を再確認させるとともに、多くの説明文に触れられる場を設定する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国語Aは全国平均を2.8ポイント上回った。 ○漢字の読み書きはどの問題も全国平均を上回った。中には13.4ポイント上回った問題もあった。漢字練習に継続して取り組ませた成果だと思われる。 ●俳句の情景をとらえたり、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読んだりする問題の正答率は、全国平均を5ポイント前後下回った。	・漢字練習には引き続き毎日取り組ませる。 ・漢字に送り仮名や読み仮名をつけて練習したり、熟語で練習したりするなどして、生活の中で使える漢字の力を身に付けさせる。 ・俳句を作るだけでなく、多くの俳句に触れさせる場を設定し、情景をとらえることに慣れさせる。 ・古文やことわざに慣れるように、朝の会などに触れる機会を設定する。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

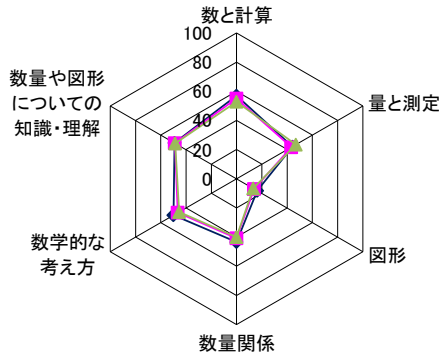
★本年度の国、市と本校の状況
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	86.7	82.9	80.6
	量と測定	74.6	72.5	68.8
	図形	86.1	80.8	81.1
	数量関係	84.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.7	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	82.7	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.0	55.1	52.8
	量と測定	44.3	43.4	47.0
	図形	16.4	13.8	13.2
	数量関係	43.4	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	49.9	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	49.2	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aでは全国平均を6.1ポイント、算数Bでは全国平均を4.2ポイント上回った。 ○基本的な計算問題(整数・分数・小数の乗法や除法)はよくできていて、全国平均を6.5ポイント以上上回っている。また、無答率は低い。 ●1より小さい小数をかける乗法の問題場面における数量関係を数直線に表す設問では、全国平均を下回っている。	・授業や朝の学習タイム、家庭学習等で、計算スキル・プリント等を活用し、正しく確実に計算ができるよう繰り返し指導してきた。今後も引き続き、児童の実態に応じた指導を充実させ、基本的な計算の定着を図っていきたい。 ・各単元の学習で、数直線上の数量を読み取ったり、数直線上に表したりする内容を丁寧に扱う。また、日常生活などさまざまな場面で数の大小について意識させ、数の理解を深めていけるようにしたい。
量と測定	平均正答率は算数Aでは全国平均を5.8ポイント上回ったが、算数Bでは全国平均を2.7ポイント下回った。 ○重さ・長さについて任意単位による測定についての設問は、全国平均を12.3ポイント上回っており、よく理解できていると思われる。 ●飛び離れた数値を除いて平均を求めたり、仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求めたりする設問では、全国正答率をやや下回った。誤答を見ると、割る数を間違えている児童が多く、問題文をよく読まず表のみを見て考えたと思われる。	・重さ・長さなどについて、学習したことと身の周りにある事象とを結び付け、実感的なものとしていけるよう、さまざまな場面で意識できるようにしていきたい。 ・平均についての考え方、平均を求めるよさについて理解を深められるようにし、確実に求めることができるよう指導し、習熟を図る。また、問題文を丁寧に読み取ることも合わせて指導が必要である。
図形	平均正答率は、算数Aは全国平均を5ポイント、算数Bでは全国平均を3.2ポイント上回った。 ○多くの設問で全国の平均正答率よりも上回っている。特に、立方体の展開図の面と面の位置関係についての設問では、全国平均を8ポイント以上上回っている。 ●円を使って正五角形を書くときに円の中心の周りの角を分割する問題では、全国の平均正答率を上回っているものの、他の問題と比べると正答率が低かった。	・立方体の展開図や面や辺の関係について、具体物を用いたり展開図を書いて組み立てたりする活動を丁寧に実施してきた成果であると考えられるので、今後も継続していく。 ・作図の指導の際には、図形の定義や性質をもとに考え説明できるような指導をしていくとともに、単元以外でも折に触れて意識させる。
数量関係	平均正答率は、算数Aでは全国平均を4.7ポイント、算数Bでは全国平均を3.2ポイント上回った。 ○基準量と比較量の関係を表す図を判断する設問では、全国平均を13.7ポイント上回った。 ●資料を二次元表に分類整理する設問では、他の設問に比べて無答率がやや高かった。	・今後も基準量や比較量、割合の関係などを正しくとらえられるよう、丁寧に指導をしていく。 ・図や表に表したり読み取ったりする活動を多く取り入れたい。少人数指導を生かし、数量の関係を考察したり説明したりできる力を身に付けられるような指導をしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童は100%、また、「自分にはよいところがある」と回答した児童は90.4%で、全国平均を11ポイント以上上回っており、達成感を味わう経験が豊富で、高い自己肯定感を有していることがうかがえる。今後も学習、生活それぞれの場面で児童の活躍の場を設け、自分に自信をもって学校生活を送れるよう支援していきたい。

○「学校で、友達と会うことが楽しい」「学校で、好きな授業がある」と回答した児童は100%で、交友関係、学習意欲の面で、充実した学校生活を送っていることがうかがえる。今後も児童が楽しく意欲的に過ごすことができる環境作りに努めたい。

○国語、算数ともに「好きである」「大切だと思う」「将来に役に立つと思う」と回答している児童の割合が、全て全国平均を上回っている。さらに、国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「意見を発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している」、算数では「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答している児童の割合が全国平均を上回っている。児童は、学習に楽しんで前向きに取り組んでおり、工夫しながら学習したり、日常生活の中で生かそうとしたりしていると考察できる。今後も児童が意欲的に取り組める、楽しい授業づくりを継続していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と回答した児童の割合は40.4%で、全国平均を11ポイント以上下回っている。学習活動の中にグループ、ペアなど少人数で意見を交換したり感想を伝え合ったりする機会を意図的に設ける、学級で自分の意見や考えをまとめて発表する活動を増やすなど、様々な場面で経験を重ね、自信をもって発表できるように支援していきたい。

●「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」と回答した児童の割合は69.4%で、全国平均を8ポイント以上下回っている。家庭でも学校での学習や生活の様子に関心をもって話題にしていけるように、家庭に向けて行事や学習内容等の話題を提供したり、児童の感想を持ち帰らせたりするなど工夫していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の充実	家庭学習カードの活用や家庭学習強化週間の実施など、全校共通で、継続的な家庭学習の支援を行っている。	「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童の割合が90.3%で、全国平均を大きく上回っている。「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合も72.5%で、全国平均を上回っている。
基礎基本の定着	朝の学習タイムを活用して漢字と計算の基本の定着を図ったり、家庭学習で音読、漢字、計算をバランスよく課題にしたりして繰り返し指導している。	国語Aでは漢字の読み書きの問題の正答率は、全て全国平均を上回っている。算数Aでも基本的な計算問題の正答率は、全て全国平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と回答した児童の割合は40.4%で、全国平均を11ポイント以上下回っている。	自分の考えや選んだ理由などを自分の言葉で話したり、書いたりする活動を積み重ねる。	ペアやグループなど、少人数で話し合う活動を意識的に設定し、自分の言葉で伝える機会を増やしていく。 また、算数の考え方や理科の考察など、自分の言葉でまとめたり、発表したりする活動を意図的に取り入れていく。